

イワシャジン *Adenophora takedae* Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 3、固有性階級 2、総点 12。分布域の狭い植物で、愛知県はその南西限にあたる。園芸目的の採取により減少している。

【形態】

多年生草本。茎は細く岩場から垂れ下がり、長さ 30~70cm になる。茎葉は互生し、5~15mm の柄があり、葉身は披針形または広線形、長さ 7~15cm である。花期は 9~10 月、花は数個から 10 個が茎の上半部に総状につき、花柄は細く、長さ 2~5cm、がく裂片は 5 個あり、線形で長さ 5~8mm、まばらに小歯がある。花冠は鐘形で、紫色、長さ 1.5~2.5cm、花柱は花外に出ない。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (小林 48071, 1993-9-19)、2 豊根 (芹沢 89012, 2013-10-9)、3 東栄 (鈴木 学 3365, 1983-10-28)、7 設楽東部 (芹沢 64488, 1992-10-30)、8 鳳来北東部 (小林 54705, 1994-10-23)。

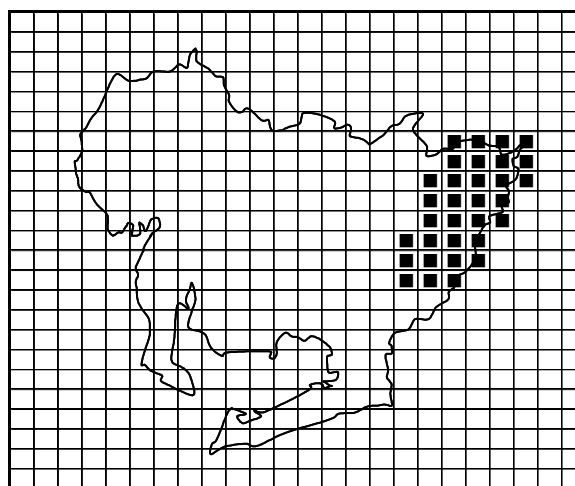
【国内の分布】

本州中部太平洋側 (関東地方西部~愛知県) に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の岩場に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩	○			
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

点在するが、花が美しいため園芸目的で採取され、手が届く範囲ではなかなか見られなくなっている。急峻な地形の場所に生育するので全滅することはないと思われるが、少なくなればますます採取され、事実上観察できない植物になってしまう可能性がある。また、手が届かない場所のものは夏の高温乾燥傾向の影響を受けやすく、その点でも衰退が懸念される。

【保全上の留意点】

園芸目的の採取を防止するため、分布情報の公表に際し慎重な配慮が必要である。

【特記事項】

「シャジン」は漢名の音読みである。

【関連文献】

保草本 I p.93, 平草本III p.151, 平新版 5 p.188.